

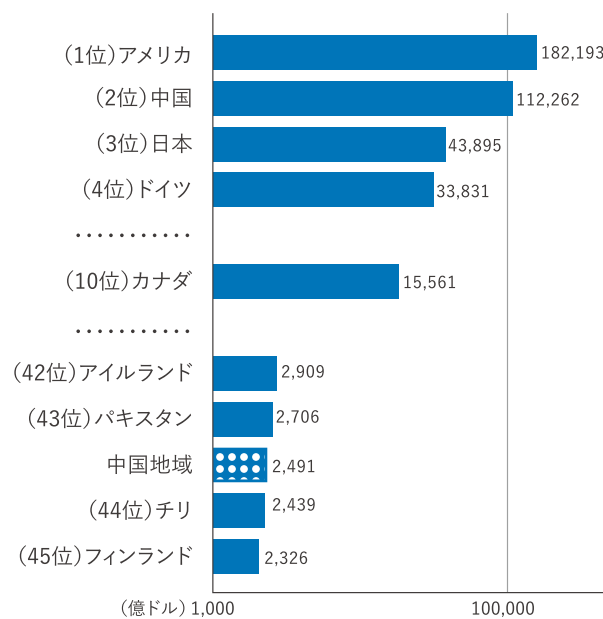
# 第1章 中国地域の概況

## I. 経済の動向

中国地域の総生産は2,491億ドルで、日本全体の5.5%にあたり、世界でみると銅の輸出で有名なチリ(世界第44位)と同水準の付加価値を創出しています。

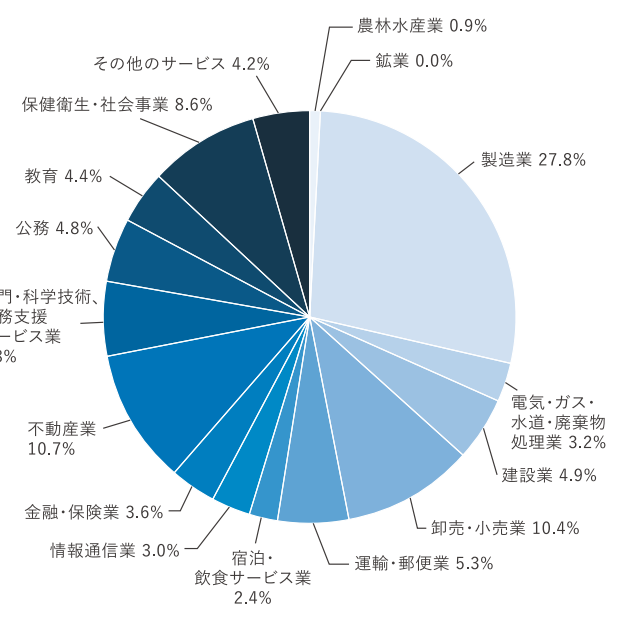
業種別(図1-I-2)にみると、製造業が27.8%と地域経済を牽引しています。また、製造品出荷額(図1-I-3)では、輸送機械、化学、鉄鋼などのウエイトが高い地域となっています。

図1-I-1:域内総生産の国際比較



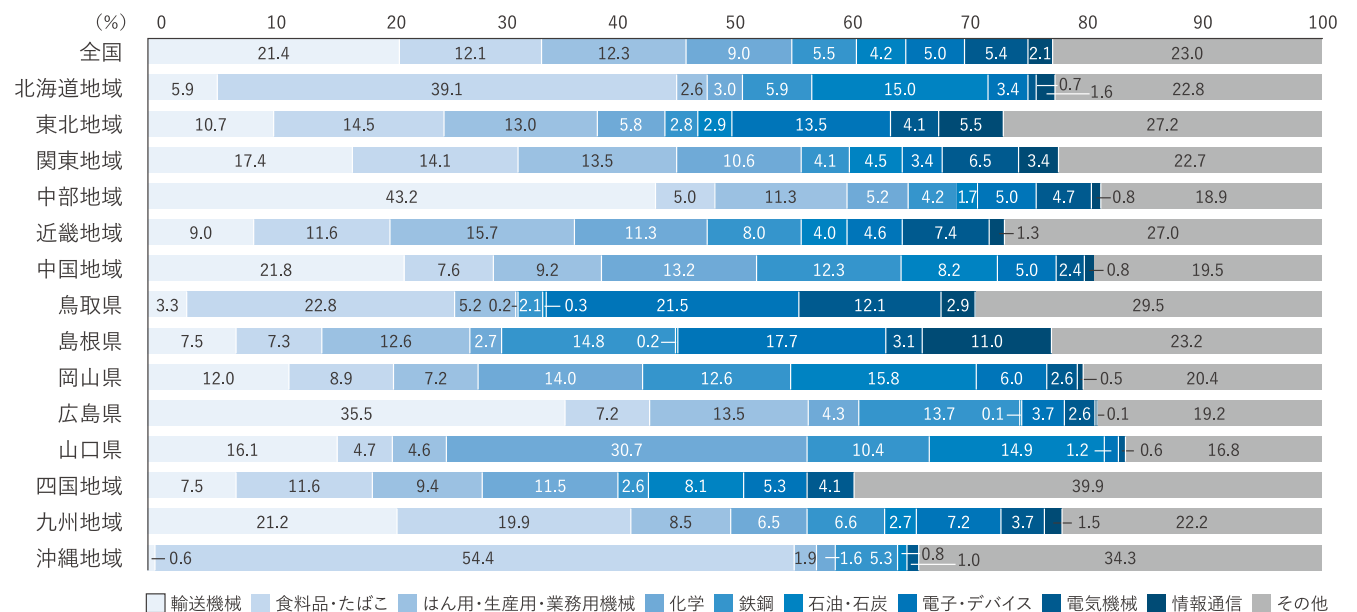
出典:1)各国の数値は、「IMFWorld Economic Outlook Database, April 2019」の2015年の数値。2)中国地域の数値は「平成27年度県民経済計算」の数値。3)県内総生産換算レートは、東京外国為替市場におけるインターバンク直物中心相場の月々平均値の12か月単純平均値(1ドル=120.13円)

図1-I-2:中国地域内の業種別域内総生産



出典:県民経済計算(平成27年度)(2008SNA、平成23年基準計数)

図1-I-3:製造品出荷額等構成比



※秘匿事業所分を除外して算出 ※ブロックは経済産業局所管都道府県区分による 出典:経済産業省「平成30年工業統計調査(確報)」(従業員数4人以上の事業所)

製造業の動向をみると、従業者の増減（2008年から2017年）は携帯電話からスマートフォンへのシフト、弁当やそう菜などの中食の増加など、社会の変化を色濃く反映し、雇用が変動している状況がうかがえます。

図1-I-4:中国地域の製造業における従業者数の変化（2008-2017）

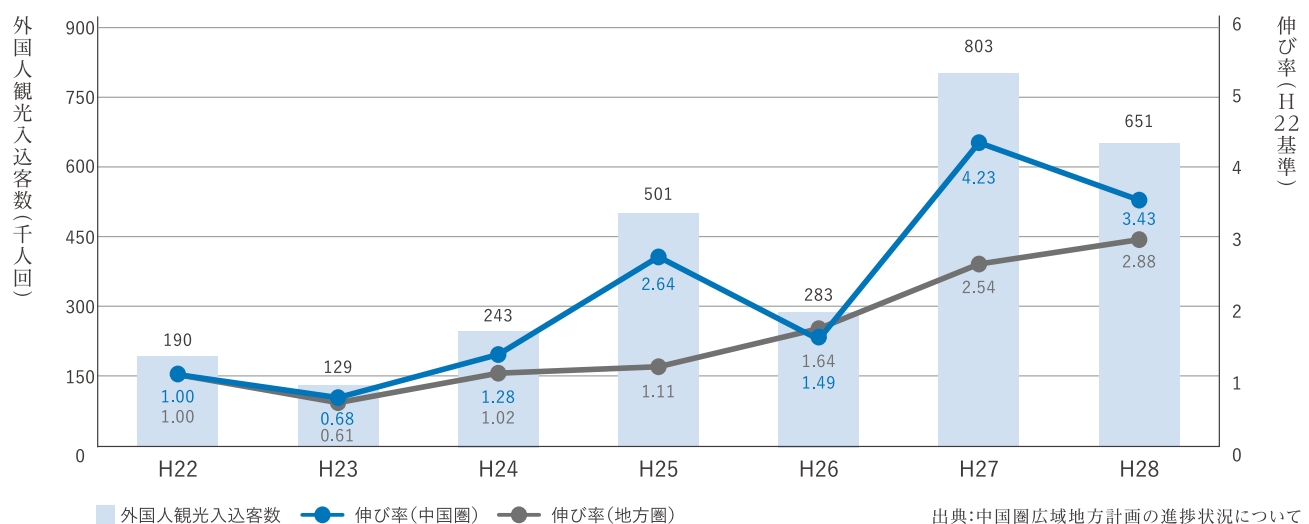
| 増加した細分類業種                 | 増減数   | 順位 | 減少した細分類業種                                    | 増減数     |
|---------------------------|-------|----|----------------------------------------------|---------|
| 抵抗器・コンデンサ・変成器・複合部品製造業     | 2,241 | 1  | 携帯電話機・PHS電話機製造業                              | ▲ 3,679 |
| すし・弁当・調理パン製造業             | 2,103 | 2  | 船用機関製造業                                      | ▲ 2,345 |
| プラスチックフィルム・シート・床材・合成皮革加工業 | 1,952 | 3  | オフセット印刷業（紙に対するもの）                            | ▲ 2,341 |
| 環式中間物・合成染料・有機顔料製造業        | 1,658 | 4  | 織物製事務用・作業用・衛生用・スポーツ用衣服・学校服製造業（不織布製及びレース製を含む） | ▲ 2,234 |
| 他に分類されない食料品製造業            | 1,614 | 5  | 電子回路基板製造業                                    | ▲ 2,229 |
| その他の有機化学工業製品製造業           | 1,550 | 6  | 半導体素子製造業（光電変換素子を除く）                          | ▲ 2,097 |
| 医薬品製剤製造業                  | 1,351 | 7  | 他に分類されないはん用機械・装置製造業                          | ▲ 2,097 |
| 各種機械・同部分品製造修理業（注文製造・修理）   | 1,265 | 8  | その他の電子部品・デバイス・電子回路製造業                        | ▲ 1,804 |
| 配電盤・電力制御装置製造業             | 1,227 | 9  | 船舶製造・修理業                                     | ▲ 1,660 |
| 建設機械・鉱山機械製造業              | 1,112 | 10 | その他の水産食料品製造業                                 | ▲ 1,573 |

出典:工業統計

観光の面では、中国地域には厳島神社や石見銀山遺跡などの世界遺産のほか、倉敷美観地区や足立美術館、湯田温泉や皆生温泉など、国内外に人気の観光資源に恵まれています。

また、こういった観光資源に加え、鳥取砂丘や大山、瀬戸内海といった美しい自然を生かしたサイクリングやトレッキングなどのアクティビティの提案により、近年特に外国人観光客の人気を博しています。

図1-I-5:外国人観光入込客数



## Ⅱ. 人の動き

人の動きに目を移すと、中国5県ではいずれも転出者が転入者を上回る転出超過の状況にあります。自然の中でゆっくりと暮らす田園回帰などの価値観や働き方の変化により、人の動き、地域のあり方が多様化しています。

# 人を呼び込む地域を創る

## ～西栗倉村、雲南市の挑戦より～

### 1. 上質な田舎へ、森林からはじまる村づくり(岡山県英田郡西栗倉村)



図1-II-1: ローカルベンチャースクール1次選考会の様子 出典:西栗倉村



図1-II-2: ローカルベンチャースクール1次選考会の様子 出典:西栗倉村

西栗倉村では、村に暮らす人たち全員が豊かになり、美しい山々との関係を築きながら、人生を楽しめる環境「上質な田舎」を創る挑戦が始まっています。

同村では「百年の森林構想」を掲げ、村が森林の管理を行い、集約化した効率的な森林施業が行われています。これにより、間伐材を加工し、製品化できる環境を整え、生産から販売まで林業のサプライチェーンを構築しています。サプライチェーンの各工程には、地元出身者はもちろんのこと、1ターン移住者であるローカルベンチャーの力を採り入れ、行政、森林組合、村民、移住者が一つになって、森を未来へ受け継げる体制を実現しています。

多くの過疎地で見られるように、村では新しい雇用が生まれにくい状況でしたが、同構想を契機にこれまでにない職種や仕事生まれ、そのことが次の移住者を呼び込み、次から次への好循環が作り出されています。

この取組の核となっているのが、ローカルベンチャースクールです。このスクールの大きな特長は、考えている事業プランを徹底的にブラッシュアップすることです。実質3ヶ月の期間を通じて、役場、メンター、サポーターが一体となって伴走し、事業化をきめ細かく支援します。これにより、スクールをファーストステップにして何人ものしっかりとした起業家が生まれています。

また、林業・農業・観光・福祉・飲食など自由なテーマで、1年をかけて自分の可能性を検証する場「ローカルライフラボ」も設置しています。1年目の研究で自分の進むべき道が定まれば、2～3年目はその研究に基づいた働き方や暮らし方を実践し、起業などに向けた具体的な動きが進んでいきます。ラボに参加するには、プランの採択は必要ですが、無事に通過すれば、研究室の提供やコーディネーターのサポートを受けられます。その結果、いろいろな思いを持った人が村内・村外から現れ、31社もの新たな起業が興りました。

## 2. 連鎖、重ね合わせて、チャレンジ文化を形成（島根県雲南市）

雲南市では、「チャレンジ推進条例」という全国初の条例を制定し、「子ども」、「若者」、「大人」、「企業」というあらゆる世代、主体のチャレンジを促進し、市民みんなで支え合い、いきいきと暮らせるまちづくりを推進しています。

子どもチャレンジでは、幼児から高校までの発達段階に応じた「夢」発見プログラムという様々な体験活動を通じたキャリア教育を行っています。体験活動により視野を広げることにより将来の選択肢が広がり、「夢」に向かって必要な力（学力、課題解決能力、想像力）を育む自立した社会性ある大人への成長を描いています。

若者チャレンジは、「幸雲南塾」という様々な人とつながり、みんなで高め合う塾形式のチャレンジの場が中心となっています。「地域を元気にする仕事がしたい!」といった想いをカタチにし、地域の未来をつくるチャレンジャーを生み出す取組です。3名から11名へ雇用を拡大した訪問看護事業をはじめ、2018年までに幸雲南塾を通じて約60名の雇用が創出されています。

大人チャレンジは、自分たちの地域を自らつくる取組です。例えば、「1人暮らしの高齢の方の見守りをどうしよう…」といったものの地域でもある課題について、自らが主体となった「地域自主組織」の活動の中で解決していくものです。地域自主組織が市からの水道検針の受託に併せ、独居高齢者等への声かけや産直市とサロン機能を持つ「笑んがわ市」の開催による楽しめる場づくりを行うなど、健全で健康な地域づくりが行われています。

企業チャレンジでは、「雲南ソーシャルチャレンジバレー」の構想のもと、地域と地域内外の企業の協働により、地域課題を解決し、新たな事業創出や移住定住の促進を図っています。



図1-II-3: 幸雲南塾2018スタートアップワークショップの様子（塾生の想いを発表） 出典: 雲南市



図1-II-4: 幸雲南塾2018最終報告会の様子 出典: 雲南市

### 雲南ソーシャル チャレンジバレー

雲南市は、これまで子ども・若者・大人の3つのチャレンジを通じて社会課題を解決し、いきいきと暮らせるまちづくりを推進してきました。これから、変化が激しく、複雑化された社会課題にさらに対応するため、地域、企業、行政など様々な関係者が協働して役割を担い合うことが求められています。そこで、子ども・若者・大人チャレンジの共創を促進するとともに、企業を新たに加えてチャレンジを加速させます。そしてこの取組を通じて10年後・20年後も雲南市が笑顔の多い「まち」であり続けることを目指します。

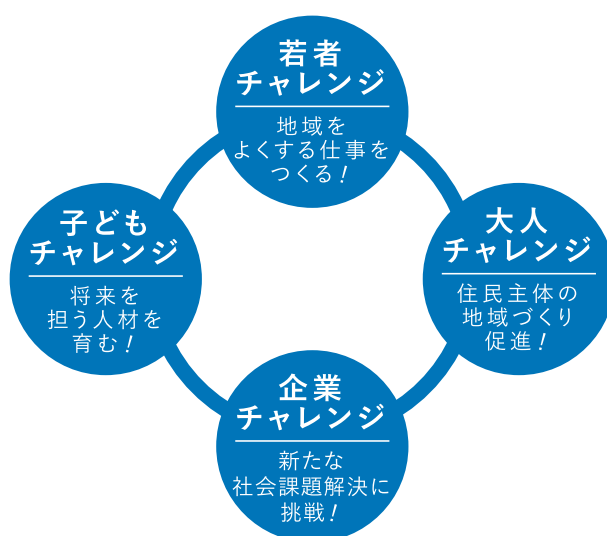


図1-II-5: 雲南市ソーシャルチャレンジバレー 出典: 雲南市